

「新日鐵住金」発足の年、 成すべきことを成し遂げる 一年に

新日本製鉄(株)代表取締役社長

宗岡 正二



あけましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返って

昨年は、米国の財政問題・EUの金融危機・中東の独裁政権瓦解などの政治経済面の動揺に加え、ニュージーランド大地震、豪州やタイの洪水など激動の一年でした。当社グループでも、将来に大きな影響を与える三つの出来事がありました。

第一は東日本大震災です。当社グループでも釜石製鉄所をはじめグループ・協力会社の拠点が被害を受けました。被災された皆様にあらためてお見舞いを申し上げますとともに、皆様から頂戴しましたお見舞い・ご支援に厚く御礼申し上げます。

第二は住友金属工業(株)との経営統合です。昨年2月に経営統合の検討開始を発表し、9月に統合基本契約書の締結、12月には日本の公正取引委員会から正式に承認を得るに至りました。

第三は経営環境の急速な悪化です。EUの金融危機や米国の財政問題に加え、新興国の成長鈍化で、世界経済は不透明感を増しています。日本経済も、震災後の六重苦にタイの洪水も加わり、日本鉄鋼業にとっても厳しい状況が続いています。1ドル70円台という未曾有の円高下、お客様の海外移転が加速しており、現在6000万トンの内需がかつての8000万トンレベルに戻ることは、当面期待できない状況です。さらに、新興ミルの出現によりアジア市場での需給ギャップ

プが拡大し、資源価格の高止まりや円高が定着するなか、輸入鋼材の急増や輸出製品の収益確保などの課題に直面しています。当社の連結経常利益も、当初見通しの2300億円から1800億円へと下方修正を余儀なくされています。

しかし今後、世界全体では新興国を中心に経済は成長を続け、インフラ整備や耐久消費財需要増などを通じて、鉄鋼需要も増大していく見通しです。中長期的に成長産業である鉄鋼業において、強固な事業基盤を確立し、グローバルな需要を捕捉できるネットワークを他社に先駆けて構築して参りたいと思います。

製鉄事業の課題

10月に統合新会社「新日鐵住金」が発足する本年、私たちは次の三つの課題に取り組んで参ります。

第一は国内外の鉄鋼事業基盤の強化です。

その実現のために、まずコスト競争力を中心とした現場力向上に取り組まねばなりません。実施済みの君津第二高炉の吹き止め前倒しやめつきラインの基幹ラインへの生産集約に加えて、今後も効率的な生産体制を構築していきます。大幅な改善を達成しつつある上工程だけでなく、下工程でも業界トップのコストレベルの実現に取り組んでいきます。また昨年新設した「設備・保全技術センター」において、設備コスト効率化やトラブル抑制を実現して参ります。「JK活動」製造実力向上活動「経営ソフト改革」などを通じて、現場基軸でのスピーディーな業務運営や、組織の垣根を越えた全社ベストの施策や人材育成を定着させていきます。

次に技術開発・イノベーションを推進します。

お客様に選んでいただける先端的商品の開発や劣質原料の使用技術開発など低コストで安定的な製造プロセスの確立に、製販技研一体となって取り組み、競合他社を引き離す技術開発に全力で取り組みます。

さらにグローバル化を強力に推進します。急激な円高などの環境変化の下、日系を含む海外のお客様への最適な生産・供給体制を追求し、日本を中心としたアジア・南米の世界三極体制を、より確かなものとしていきます。稼働中の案件はもとより、現在進行中の案件の円滑な立ち上げや新たな地域・品種を含めた市場動向に対応して参ります。南米ウジミナス社については、テルニウムグループと協力し、抜本的な競争力強化に取り組みます。

第二は住友金属工業との円滑な経営統合です。

前述の三つの取り組みは、経営統合で両社の力を結集することによって、より高いレベルでスピーディーに実現することが可能となります。「スケール」「テクノロジー」「グローバルバリエーション」の三つを兼ね備えた「総合力世界ナンバーワン」の鉄鋼メーカーに向けて、社員一人ひとりが「ベスト・フォア・ザ・ニューカンパニー」[統合を必ず成功させるのだ]との強い信念をもって、万全の準備を進めて参ります。

第三は信頼と安全の基盤向上です。

法令やルールの遵守を含む「信頼」の確保は、事業継続の大前提であり、社会や地域、株主の皆様、お客様をはじめとする取引先、従業員や労働組合、協力会社の皆様との信頼関係がなければ、企業として存立できません。新日鐵グループ経営理念の第一に掲げられた「信頼」の意味を再度心に刻み、私たちが引き継いだ信頼の絆を次の世代にも引き継いでいく考えです。

また企業活動のすべての基本は、「安全」の確保にあります。安全な職場の実現に着実に取り組んでいますが、まだ道半ばであり、設備対応などのハード面に加え、危険体感訓練や安全研修などのソフト対策を通じて、安全対策に取り組んで参ります。

製鉄以外の事業セグメントの課題

自律的な事業運営をベースとした各社の取り組みで

競争力の一層の強化を図り、各事業領域におけるプレゼンスの向上、グループ全体の総合力を発揮し、当社グループの連結企業価値の向上に取り組んで参ります。

エンジニアリング事業

では、足下の厳しい状況を踏まえ、まずは受注規模の確保とコスト削減、併せて各事業の構造対策や海外市場での事業規模拡大を推進していきます。

都市開発事業

では、震災から回復しつつある首都圏マンション需要の捕捉と、リスクコントロール可能なスキームでの都市・地域再生事業を展開していきます。

化学事業

では、不透明さを増す事業環境の中で、コスト競争力向上などの製造実力強化と、伸びゆくアジア市場でのグローバル展開、併せて新規需要の開拓に注力していきます。

新素材事業

では、特徴のある技術に磨きをかけ、商品競争力の向上や新商品の開発に注力し、また人材育成やグループ内外との連携強化で、成長の基盤づくりを進めていきます。

システムソリューション事業

では、新技術の動向を踏まえ、顧客を総合的にサポートし信頼されるITパートナーを目指し、併せて人材育成やアジア拠点の活用で、技術の向上と競争基盤の強化を推進します。

終わりに

統合新会社発足までの間、自らの競争力向上にまい進するとともに、統合を円滑に進め、その効果を最大限かつ速やかに発揮し、「総合力世界ナンバーワンの鉄鋼メーカー」を築き上げて参ります。変化に的確に対応する一方で、「ぶれない軸」をしっかりと「新日鐵住金」に受け継ぎ、「成すべきことを成し遂げる一年」にしていきたいと考えております。

この一年が、皆様にとって健康で明るい年となりますよう祈念し、年始のご挨拶といたします。